

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 5 月 30 日現在

機関番号：17401

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2012～2015

課題番号：24792438

研究課題名(和文)急性白血病の高齢患者の闘病を支える熟練看護師の支援プロセスに関する研究

研究課題名(英文)Processes to assist expert nurses who support elderly acute leukemia patients in battling disease

研究代表者

福山 美季(Fukuyama, Miki)

熊本大学・その他の研究科・助教

研究者番号：40452875

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 700,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、急性白血病の高齢患者への看護ケアの質向上のために、高齢患者への熟練看護師の看護実践について明らかにした。熟練看護師9名に対し、面接調査を実施し、修正版GTAで行った。看護師は、診断直後から高齢患者との【個対個の関係構築】を行いつつ、【深く広い患者理解】と【周囲との協同】を継続的に行っていた。看護師は、高齢患者の【長い闘病生活を最大限支える】ために、【安全な治療遂行】【副作用のマネジメント】【好ましい清潔習慣獲得への支援】【日常生活動作への働きかけ】【患者の時間・空間の確保】の5つの視点で看護に取り組んでいた。看護師は【白血病の高齢患者・患者への看護の実体験】をケアに活かしていた。

研究成果の概要(英文)：In this study, we sought to identify nursing practices employed by expert nurses while caring for elderly acute leukemia patients in order to improve nursing care for these patients. Semi-structured interviews were conducted with nine expert nurses. A modified version of GTA was used. Starting immediately after diagnosis, nurses continually sought 【broad and in-depth understanding of the patient】 and 【cooperation with people surrounding the patient】 while 【establishing a one-on-one relationship】 with the elderly patient. Nurses embraced the aim of 【providing as much support as possible for their long struggle with disease】 as they cared for the elderly patient in terms of the following five aspects: 【safely carrying out treatment】 【managing side effects】 【supporting good cleanliness habits】 【encouraging activities of daily living】 and 【securing time and space for the patient】. Nurses utilized their 【practical experience of caring for (elderly) leukemia patients】.

研究分野：看護教育学

キーワード：急性白血病 高齢患者 熟練看護師 看護ケア 質的研究 修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチ

1. 研究開始当初の背景

急性白血病は、造血幹細胞に遺伝子異常が生じ、分化能を失った異常な芽球が単クローン性に増殖する疾患である。我が国の白血病の発症率は増加傾向にあり、2009年では、年間人口100000万人当たり6.3人(男7.8人、女4.9人)で、年間7600人が死亡している。白血病はどの年代においても発症するが、我が国においては、50歳代以上で罹患率が上昇し、発症のピークが高齢者へと移行している。高齢社会を迎え、我が国では、今後、白血病を発症する高齢患者の数の増加が見込まれ、その中で、化学療法を選択する高齢患者も増加することが考えられる。

急性白血病では、Total cell killの治療理念のもと侵襲的な抗がん剤を用いた寛解導入療法そして寛解後療法が行われる。

白血病の患者は、長期間の治療を受けるとともに、治療に関連した多くの副作用を経験することになる。Garolは、白血病の患者らをケアする学際的なチームにおいて重要な役割を果たすのは看護師であり、看護師は、深刻な事態につながる微細な変化に気づくとともに、患者の心理面や患者や患者のサポートシステムまでを含めたケアを行うと述べている。

ところで、現存する研究においては、看護師の視点からの白血病の患者、特に、高齢患者への看護実践に焦点を絞った研究は少ない。高齢期の患者の特徴には、身体面では、諸機能の低下に伴う日常生活への影響や疾患罹患の危険性の高まり、精神面では、老いの自覚・老いの受容と適応・活動範囲の変化、社会面では、役割機能・生活パターン・経済機能の変化がある。これらの特徴に、疾患・治療や文化的な特徴も考慮した看護の関わりが必要になってくると考える。疾患・治療については、高齢患者の白血病の特徴として、治療難反応性であること、また、様々な臓器の予備能力が低下していることが化学療法

を行う上で問題となっている。

そこで、本研究では、急性白血病の高齢患者に対して日本の熟練看護師がどのような看護を提供しているのかについて明らかにすることを試みた。

2. 研究の目的

白血病の高齢患者への看護師によるケアの質向上を目指して、熟練看護師による高齢患者へのケアの実際を明らかにする。

3. 研究の方法

(1) 研究対象者

以下の条件を満たす9名を対象にインタビューを行った。

- 1) 臨床経験5年以上かつ血液内科病棟に3年以上勤務している
- 2) 65歳以上の初発の急性白血病の高齢患者を受け持ったことがある
- 3) 急性白血病の高齢患者への理解や関わり方について熟知しており、経験的にどのような点に気をつけ、どのタイミングで、いかなる対応を行う必要があるのか実践できる段階にある

以上の条件を満たす看護師の推薦を病棟の看護師長に依頼した。

(2) インタビュー内容

診断から治療期にかけて、各々の対象者がケアを行った1人の高齢患者について、診断から治療期における看護ケアの実際を具体的に語ってもらった。

(3) 分析方法

分析方法は、修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチを採用した。この方法は、まず、「診断から治療期における看護師の判断とケアの実際」に焦点を定め、データの解釈を行い、ある程度の多様な現象を説明できるような独自の概念を作った。その後、概念

同士の関係性を考え、カテゴリを生成。さらにカテゴリ 同士の関係性を検討し、最終的に、各カテゴリを統合的にまとめた説明図（理論）を生成した。

4. 研究成果

(1) 全体の結果

熟練看護師は、看護を行う基盤として初回の入院直後から高齢患者との【個対個の関係構築】を大事にしながら、【深く広い患者理解】と【周囲との協同】を継続的に行っていた。そして、熟練看護師は高齢患者の【長い闘病生活を最大限支える】ことを目標に、【安全な治療遂行】【副作用のマネージメント】【好ましい清潔習慣獲得への支援】【日常生活動作への働きかけ】【患者の時間・空間の確保】の5つの視点で高齢患者の看護に取り組んでいた。これらの熟練看護師の看護には、蓄積した【白血病の高齢患者・患者への看護の実体験】が活かされていた。

(2) 各カテゴリ、概念の結果

【 】: カテゴリ []: 概念を示す

5つの看護実践 five aspects of care

熟練看護師は、以下の5つの視点から高齢患者への看護を実践していた。

【日常生活動作への働きかけ】

高齢患者は、入院生活を送るにあたって、副作用症状による影響から生活行動を行う余裕を失ったり、治療中は動いてはいけないという思い込みから[生活行動の縮小]が起こったり、生活援助を受けることに対して[自分でしたい・情けない]という思いを抱いていた。この[生活行動の縮小]に対して、熟練看護師は[生活援助の内容・方法の創意工夫]を行い、また、[退院を意識させる]ことで、高齢患者が少しでも日常生活動作を行う意欲を持てるような関わりを行っていた。また[自分でしたい・情けない]という思いに対して、熟練看護師は高齢患者の意思や自律性

を尊重し[できることは奪わない]姿勢で接したり、生活援助は[看護師として当然の仕事と伝える]ことを心がけていた。

【好ましい清潔習慣獲得への支援】

[染みついた独自の清潔習慣]を持ち、[今さら言われたくない]という思いを抱く高齢患者に対して、熟練看護師は[精選し工夫を凝らした説明]をまず行っていた。その次に、熟練看護師は、高齢患者の[従来習慣を一旦肯定する]姿勢を示した後に、タイミングよく声をかけたり、実際に手を出したりする[習慣化を目指した試行錯誤]を行い、感染予防に必要な清潔行動の獲得に向けた関わりを行っていた。さらに、高齢患者が好ましい清潔習慣を獲得ができていく過程では、熟練看護師は、相談に応じたり、頑張りを認めることで[好ましい清潔習慣の維持・強化]を行っていた。

【安全な治療遂行】

転倒やせん妄の発生するリスクの高まりといった[安全に治療が進まない恐れ]が生じると、熟練看護師は高齢患者の尊厳と安全面を十分に考慮した上で、転倒予防のためのマットを装着したり、頻回の訪室を心がけるといった[リスク回避の手段を講じる]ことや、高齢患者に対して、管理的な面を強調するのではなく[守りたい思いを前面に出す]関わりを行っていた。

【副作用のマネージメント】

高齢患者は、副作用への理解が不十分であったり、我慢する傾向が強いことから、副作用を[上手に訴えられない]状況にあった。熟練看護師は、高齢患者が[訴えやすい雰囲気作り]を心がけるとともに、看護師側から副作用症状が出現していないか[常に気にかけて確認する]ようにし[積極的に身体の不快感への対応]を行っていた。また、副作用対策を先取りして始めるよう促すなど[対処方法の助言・提案]も積極的に行うことで副作用の出現防止及び軽減を図っていた。

【患者の時間・空間の確保】

高齢患者は入院中、言われたことは守らなければならないといった[ゆとりのない入院生活]を送っている。白血病は長い期間の入院加療が必要なこともあり、熟練看護師は、入院生活そのもののストレスを少しでも軽減できるように、管理上の制限を緩めたり、患者自身の趣味の時間のケアを控えたりといった[快適な入院生活を演出する]ことを心がけていた。また、一時退院の時間も、守るべきことを伝えながらも[リフレッシュを促す]ことも意識して行っていた。

5つの看護実践 five aspects of care を支える3要素

【個対個の関係構築】

熟練看護師は、高齢患者に接する際に、挨拶や敬語を守るといった[礼をわきまえる]ことや、看護師は、安心でき、頼ってもいい存在であると高齢患者に認知してもらえるように、高齢患者にとって[安全基地として存在する]ことを意識して関わっていた。

【深く広い患者理解】

治療目的・患者の病気や治療への認識や心情・性格・入院前の清潔行動・基礎疾患のコントロール状況などについて正確に把握しようと、継続的に注意深く観察や情報収集を行うといった[観察眼・情報収集力を駆使する]ことや、患者の話を[じっくり聴く]ことを行っていた。

【周囲との協同】

他の看護師に対して、自らが立案した個々の高齢患者へのケアの具体的な内容についてアピールするなど[ケア方針のイニシアティブをとる]ことや、高齢患者にとって「先生様」の医師の存在を説明時に活用したり、副作用の対処法を提案する際に他患者の存在を活用するといった[医療者・家族・他患者の活用]を積極的に行っていた。

5つの看護実践 five aspects of care への影響要因

【長い闘病生活を最大限支える】

[長い闘病生活を最大限支える]の定義は<熟練看護師は、治療目的を意識して、高齢患者の人生や価値観にも配慮し、できるだけ苦痛やストレスを軽減する援助を行うことで、高齢患者を精一杯支える気持ちでケアを行っていること>とした。

【白血病の高齢患者・患者への看護の実体験】

熟練看護師の高齢患者への看護には、熟練看護師自身の転倒防止を言い過ぎて患者にシャットアウトされたといった[苦い経験からの学び]や白血病の高齢患者の場合[いつ亡くなくてもおかしくない]という思いが影響を与えていた。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計0件)

[学会発表](計0件)

[図書](計0件)

[産業財産権]

出願状況(計0件)

取得状況(計0件)

6. 研究組織

研究代表者

福山美季 (FUKUYAMA MIKI)

熊本大学・大学院生命科学研究部・助教

研究者番号：40452875